

日本あちこち河川遡行記（第233回）

大阪2-1-1. 千早川（その1）平成31年2月25日（月）快晴

今日もこだま早特切符が入手できたので新幹線利用で出かける。8時台が取れず7時8分発の早い時刻のこだまに乗る。目指すは「石川」の支流「千早川」であるが、喜志駅前で見えた聖徳太子の石柱が気になり、せっかくなので太子の墓が有ると言われている「叡福寺」に立ち寄ることにする。



01. 今回の遡行区間位置図

喜志駅前から金剛バスに乗り太子前に向かう。金剛バスは初めて乗るバスで、在阪5大私鉄のバス以外も有るのだ。どの私鉄にも属さない独立した路線バス会社である。車体の塗り分けはかつての南海電車の色使いによく似ている。10分ほどの乗車で「太子前」に着く。バス停の前が叡福寺である。



02. 金剛バスに乗り太子前で下車

低い丘の上に山門と伽藍が有る。石段を上り門をくぐると細かい砂利が一面に敷かれ、広い境内の北側の丘に太子と太子の生母、妃の3体の墓が一緒になっているようだ。寺は今ほどの宗派にも属さない単立寺院である。日本の礎を造った最大の偉人の墓を守っている寺院を特定の宗派にするわけにはいかな

かったのだろう。



03. 聖徳太子の墓が有るとされている
叡福寺

04. 寺は無宗派の単立寺院だ



05. 細かい砂利が敷き詰められた広い境内

丘を背にした墳墓はそれほど大きくは無く、天皇では無く皇子であったのでそれ相応の規模になったのだろう。寺と墓の有る「太子町」には太子と関係の深い4人（敏達、用明、推古、孝徳）の天皇の陵が有る町で、兵庫県にも同名の町が有る。堺の東部から藤井寺、羽曳野そして太子には墳墓に適した丘が多数あり、大和からも平城京、平安京からも近いので墳墓の適地だったのだろう。



06. 太子と生母、妃の3人が埋葬されている墳墓

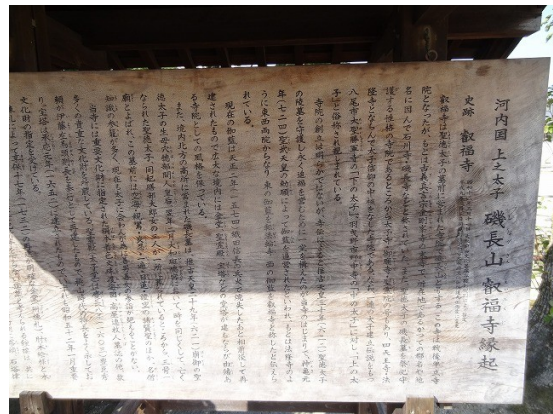


07. 彼方には金剛、葛城の山並みが見える

社務所でお寺のことを聞き境内をゆっくりと巡る。枝垂れ梅が数輪咲いている。今日は快晴で暑いくらいの天候である。彼方には葛城山と金剛山も春霞の中薄ぼんやりと見えている。大阪にもこんなに穏やかな景色が有るのだ。



08. しだれ梅が咲きだしている



09. 寺の縁起を見る

バス停のある道路に戻り本題の千早川に向かうことにする。府道32号に太子町のマンホールが有るのでカシャ。絵柄は太子の「和を以て貴しとなす」と二上山、叡福寺の多宝塔で、見ただけでどこの蓋かがすぐ分かる。

大型車が何とかすれ違える府道の上を見ると電線が無い！電柱は立っているが空を覆うあの架空線は見当たらず、電柱と変圧器、道路標識、各家への最小限の電線だけで、本線は地下に埋設されているようだ。狭く民家が立て込んでいる所ではこれが良いのかもしれない。たいしたもんだなー



10. 太子町の絵柄は太子の言葉だ



11. 電柱は有るが電線は無いよ

西に進むと石川の支流である「太井川」を越える橋「太井川橋」に差し掛かる。親柱には町の東にある「二上山」が鎮座している。更に進むと空は電線が交錯しており、「太子四つ辻」の交差点に着く。交差点を左折し南に向かう。3月下旬には高校の同期生との春の散策でこの交差点を右折した北の「壺井八幡」に向かう予定である。



12. 「太井川橋」の親柱は二上山だ



13. 太子四つ辻交差点を南に折れる

府道 27 号の歩道の無い道を進むと太子町から「河南町」に入る。歩道の無い道はカナンナー。



14. 河南町に入る

河南町に入ると左前方の丘の上に欧州の城のようなコンクリート打ちっぴなしの建物が目を引く。「大阪芸術大学」の校舎である。喜志駅前のバス乗り場の先に大学行きのバスがいたな。すぐに町のマンホールが現れる。絵柄は極く普通のどこにでもある町の花と木の組み合わせである。芸大にもっと斬新な物を考えてもらっては如何かな。



15. 丘の上に「大阪芸術大学」が
桜



16. 河南町の絵柄は町の花と木のユリと
桜

コンビニに立ち寄りトイレとサンドを摂る休憩とする。10分後遡行を再開し府道を南に向かう。道は丘陵に入り緩い坂道が続く。途中から町営バスのバス停が現れだす。路線図に書かれたバス停名は番号表記になっている。地名が乗っ取らんぞ。町のマスコットキャラクターは「カナちゃん」と言うようで、カワイイ。



17.町営バスのバス停は記号表示だ

「大ヶ塚」交差点で右折し千早川に向かう。丘から府道 33 号を西に向かい下り坂となる。最初の橋「下東条橋」を見て左岸側の舗装されていない土手道を上流に向かう。すぐに石川との合流点からの距離標識が現れる。0.8kmである。大和川の二次支流にまで距離標があるのには驚きである。



18.合流点から 0.8km地点から遡行開始

河南町から一旦富田林市に入り上東条橋を過ぎると土手沿いには産業廃棄物の処理場、何を造っているのか分からないミニ工場など川沿いによくある施設が並んでいる。土手道の先が行き止まりなので来た道を少し戻り、西側の段丘上の道に向かう。再び河南町となり「寛弘寺」地区の住宅と畑の間の道を南に進む。民家の庭には立派な紅白の枝垂れ梅が見ごろの花を咲かせて競演している。



19.珍しい白梅の枝垂れ梅



20.紅梅も有りませ!

橋を見るため段丘の上を右往左往しながら南に向かう。「神山橋」を見てからは府道 705 号を進む。次の「金剛橋」は高欄の外側に嵌められた諸元から昭和 11 年完成と分かる。

続く国道 309 号の橋名は「かつらぎ橋」。二つの名山を冠した橋が続く。こちらは平成 17 年完成の新人で親柱には葛城山が描かれている。本物が一緒に入る場所からカシャ。



21.金剛橋は昭和 11 年完成の古強者



22.「かつらぎ大橋」の親柱と本物を一緒に

川は浅い溪谷状となり平坦な地形の一部が削られた形となる。右岸側の道に入ると今や希少価値となった村、「千早赤坂村」に入る。小学生の頃は「千早村」と「赤坂村」であったが一緒になったのだな。平成の大合併で多くの村が無くなったが大阪府はこの風に惑わされず合併した自治体は少ない。全国の

府県で村の無くなった府県は今や 13 も有る。大都市を抱えた東京、神奈川、愛知、大阪、福岡には村が有るのにな。村が無くなったのは過疎化の証である。

すぐに村のマンホールが現れる。今日は 3 つも遭遇したぞ。絵柄は見ただけでどこか分かる人には分かる絵柄である。金剛山が双山になっているのはおかしいぞ。後刻村役場で確認すると何故双山になったのか分からないとのことでマンホール巡りのマニアからは二上山ですかと聞かれたと打ち明けてくれた。



23. 楠木正成の「千早赤坂村」は村の木、楠の木と花、山百合と金剛山と菊水だ

かつての府道と思しき道の狭い路地との角に「とびだし危険」と書かれ、菊水を背負った子供が描かれた看板が立っている。小学生向けに設置したカワイイ看板である。これも役場で聞くと「まさしげ君」とのことであった。



24. 道路には「まさしげ君」が立つ

街並みの要所要所には立派な地蔵堂が建ち、その横には法事を済ませた人からの寄付金のピラが貼ってある。これも亡くなった人への供養としての風習な

のだろう。



25.地蔵堂には法事の寄付金の紙が貼ってある

道沿いに最近改装したような綺麗な建物が建っている。入り口横に大きな茶壺が二つあるのでお茶屋さんなのだろう。最近古民家の再生があちこちで行われているが、ここもその波に乗ったようだ。

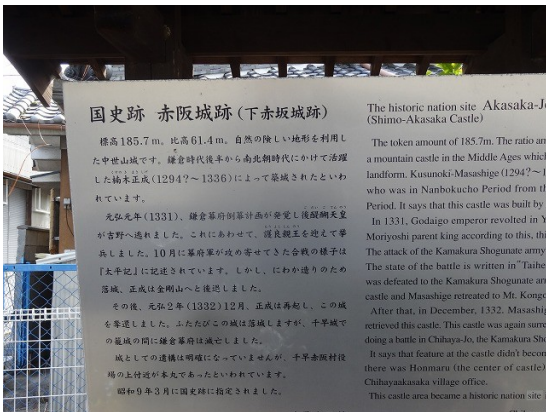


26.お化粧された古民家はお茶屋さん？

やがて村の中心に入り道は勾配がきつくなる。「赤阪大橋」を見て村役場前バス停に着く。バスまで時間が有るので役場に入り二階の観光担当課で話を聞く。15分ほど役場でバスを待ち14時28分発富田林駅行き金剛バスに乗る。今日歩いた河南町、千早赤坂村には鉄道が無く、太子町は近鉄が走っているが駅が無い大阪には珍しい町村である。北部の「能勢町」にも鉄路が無い。



27.村役場に立ち寄る



28.「下赤阪城址」の解説



29.村の絵地図

本日の歩行距離：11.7km。調査した橋の数：14。

総歩行距離：10,308.2km。総調査橋数：12,877。

使用した1/25,000地形図：「大和高田」（和歌山5号-2）、「古市」（和歌山5号-4）、「富田林」（和歌山6号-3）